

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット1)

事業所番号	0171400146		
法人名	社会福祉法人 敬聖会		
事業所名	グループホームききょう(和ユニット)		
所在地	北海道函館市桔梗町557番地		
自己評価作成日	令和1年10月16日	評価結果市町村受理日	令和2年1月21日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0171400146-00&ServiceCd=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	企業組合グループ・ダイナミックス総合研究所 介保調査部
所在地	札幌市手稲区手稲本町二条三丁目4番7号ハタナカビル1階
訪問調査日	令和元年11月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者と職員が生活を共にするという考えを大切に、ゆったりとした空間であるよう努めている。加齢による心身変化についても事業所看護師、敷地内協力病院と密に連携を取りできる限り本人と家族意向に沿って対応できるように努めている。ケア質向上を目的に、職員個々レベルに応じた研修へ参加したり内部研修を行い、スキルアップに励んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、函館市の北方向に位置する桔梗町の丘陵地にある2階建て4ユニットのグループホームである。敷地内には、法人グループの医療機関や老人保健施設、ケアハウスがあり自然に囲まれ、函館山や市内が一望でき眺望が良い地区である。運営法人は、医療法人を母体とした社会福祉法人がケアハウスとグループホームを運営しており、当事業所は、介護保険制度開始後間もなく開設したグループホームで24時間の医療支援体制を構築している。ホーム内は、1フロア2ユニットの2階建て4ユニットで、玄関を挟んで左右対称にユニットがあり、利用者がユニット間を往来し広いホームを散歩している。居間には、畳の小上がりもあり、広くゆったりとしたリビングで利用者はいつも寛いで過ごしている。また、居室には、トイレと洗面台が設置されプライバシーに配慮している。介護の業務記録は、一早くICT化を進め職員の負担を軽減している。市から要請の困難事例の緊急対応や看護学校生のボランティアの受入れなど地域と関わりアットホームな雰囲気、これからも認知症介護の事業所として期待したい。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をスタッフ一同共有し、ミーティングや勉強会において話し合いがもたれケアにおいての実践に取り組んでいる。	法人の理念と事業所の理念があり、事業所内に掲示し、利用者や家族にも周知するよう努めている。職員は、年一回理事長からの説明があり、毎月のミーティングでも確認するなど職員間で共有し実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	2か月に一回の運営推進会議に町会役員の方に参加して頂き、意見交換を行っている。	町内会の行事に参加したり、事業所主催の夏祭りに家族や地域の方が参加しており、また、看護学校の生徒がボランティアで来るなど地域との交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に町会役員の方に参加して頂き、GHでの生活の様子をビデオで観て頂いたり、認知症高齢者に対する対応や支援の方法を事例を基に報告している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている	事業所の利用者状況、活動状況を報告し、地域からの情報、意見を受けサービスの向上に活かしている。	運営推進会議は、家族や地域の方、地域包括支援センター担当者が参加して、定期的開催し運営状況の報告や情報交換、意見交換を行い、サービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	主にホーム長が窓口となり、市町村担当者と連絡を取り合いサービスの状況等を伝えている。	市保護課は毎月訪問があり、困難事例などの情報交換や緊急時の対応も連携して行っている。地域包括支援センターの依頼で、小学校で行った認知症カフェに参加協力をするなど協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修に参加したり、身体拘束マニュアルに基づく勉強会で十分に話し合いを行っている。夜間は防犯の為施錠しているが、その他は開錠している。利用者様の状況に応じ散歩、外出支援を行っている。	身体拘束をしないケアについては、毎月開催しているリスクマネジメント委員会の中で、身体拘束適正化委員会を設置し、3ヶ月に1回検討会を行っている。また、外部研修会に参加したり、法人内の研修に参加したりして、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティングで虐待について話し合い、日頃よりスタッフ間で注意や意見が言い合える環境を作るよう意識し、防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加しそこで学んだ事を勉強会やミーティング等で共有し必要性のある利用者がいた時は対応できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはケアや費用等の重要事項を十分に説明し、不安や疑問に対し出来る事を説明し理解を得ている。契約解除時もわかりやすい説明を行える努力をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱をエントランスに設置している。面会の時や特に行事の時等は家族や利用者様の会話の中から気付いたことなど反映させるようにしている。アンケートの結果や意見はユニット会議で話し合い対応策を検討し対応している。	ホーム便りを年3回発行して、運営状況を家族に報告している。また、利用者個々の生活状況については、毎月手紙を書いて報告している。意見箱を玄関に設置しているが、家族からの意見や要望は、来訪時に殆ど聞き取り運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	一か月に一回のユニット会議にはホーム長も出席し職員の意見を聞いたり、必要時は個別に時間を設け、意見を反映できるよう行っている。	ユニット会議は月1回行っており、主任ミーティングも毎月行っている。個人面談は、不定期で行っており、職員からの意見や提案は運営に反映している。	会議等は定期的に行っており、個人面談は随時実施しているが、人材教育や人心掌握の為に定期的な個人面談を実施することに期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心を持って取り組めるように勉強会や研修に参加できるよう促している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフ個々に適切な研修の参加を促したり、勉強したい内容の希望を聞いている。研修した内容はミーティングで報告し、情報を共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	研修会等他施設の職員と事例について話あったり、意見を交換している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談の際には会話の中から本人が思っている事を少しずつ聞きながら、信頼関係が築けるよう努力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談だけではなく電話での相談や来訪時に家族が何を思い希望されているかを聞き取り信頼関係を築く事に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に利用者様に見学して頂いたり、出来るだけ希望に添えるようにスタッフ間で話し合いながらサービスを提供している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で不十分な所はサポートしながら、本人の得意な事や知識を引出し、支える関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時等に本人の状況を伝え、今までの生活を踏まえて、どのようなケア方法が良いのか一緒に考えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの関係が途切れないよう面会に来て頂いたり、また来て頂けるよう声掛けし、次回に繋げている。	利用者の殆どは、地元出身者で友人や知人の来訪もある。家族と一緒に墓参りやカラオケなどに行ったりしている。また、家族が入院している病院の見舞いや病院の売店、個別の買い物など職員が同行して支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性を把握し、座席の配置を工夫しながら関わり合いが出来るよう場作りをしている。必要時はスタッフが介入するが、それ以外は見守り、個々の個性が発揮出来るよう配慮したり、孤立しないようにも注意し支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もお見舞いへ行ったり、家族の相談にのったりし、関わりをもっている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	関わりの中から希望を聞き、困難な場合は家族への情報を求めたり、スタッフ間で情報を共有しながら支援している。	買い物ついでにラーメンを食べるなど、好きなものや行きたいところなど、日常生活の中で本人の思いや意向の把握に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に生活歴やバックグラウンドを詳しく探り、必要時には家族や、それまで関わっていたケアマネ等に情報をもらっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活のリズム(食事、睡眠、排泄)を記録や申し送りを通じて把握出来るよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の行動、表情、言葉等から得た気付きや家族の意向を記録し、その情報を基にミーティングで評価し四か月に一度介護計画に反映している。利用者の変化に応じて見直しもやっている。	利用者毎の担当者制で、担当者がアセスメントし、モニタリングを行い、本人や家族の意見や要望も含め計画作成担当者がそれらをまとめて原案を作成して、各ユニットでカンファレンスを行って、現状に即した介護計画を作成している。見直しは4ヶ月サイクルで行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿った記録は、関わりで記録し、見直し時に活かしている。体調の変化や印象に残る本人の発言等記録しプラン作成時に役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族や本人と話し合いながら出来るだけ希望に添えるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	移動販売の利用や、病院の売店、近隣のスーパーへ買い物へ行ったり、近隣の食堂へ外食に出かけている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	特変時にはすぐに医師からご家族へ症状の説明を行ったり、今後の事を話す機会を多く設け、適切な医療を受けられている。	隣接している協力医療機関に月1回の職員の同行受診を支援している。眼科などの専門医の往診もある。看護師は常駐しており、24時間体制で適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バイタルや状態の変化があった際は、すぐに看護師へ相談し、指示を受けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	頻繁にお見舞いへ行き、状態や今後の治療について医師や看護師等と定期的に話し合っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	定期的に細かく情報交換はしているが、重度化してきて時は家族ともその都度話し合い、看取りの指針や必要な説明事項を用意し、必要時に行っている。	重度化や終末期については、入居契約時に対応方針を説明し同意を得ているが、定期的に意向を確認している。また、重度化した場合に再度打ち合わせして意向を確認しているが、緩和ケアの希望が多く最終的には医療機関へ移行することが多い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応のマニュアルを作成。AEDの講習も行っている。ミーティングでも勉強会を行い、話し合い実践力を身に付けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会いのもと定期的に訓練し、訓練時には他施設と協力している。緊急時マニュアル、災害時連絡網は見えるところに掲示してありそれに従い対応している。	避難訓練は、消防署立会いの下、緊急時マニュアルや災害時連絡網を整備し、備蓄や備品も備え、隣接している同法人の施設と連携して、定期的に年2回行って、地域との協力体制を築いている。	

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の誇りを尊重し、プライバシーの確保を職員同士で心がけており、お互いに気付いた事は声掛けするようにしている。	人格の尊重とプライバシーについては、法人内の合同研修で接遇研修を行っており、ユニット会議でも指導や注意をして、対応している。	法人内の合同研修で、定期的に行っている接遇研修に参加して学んでいるが、事業所内やユニット内で再度内部研修等で接遇全般について確認することを期待する。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が難しい方は表情、動作等から本人の希望や感心事を考えながら、自分で選べる場面を作れるようここがけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	利用者様優先とし、入浴や食事の時間を本人のペースに合わせてセッティングしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で着たい服を選んで頂いたり、外出時には早めに声を掛けて化粧や身だしなみを整える時間をとるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に盛り付けや食器洗い、食器拭きをしたり、食事の際は会話が弾むように場面作りや食事の席を工夫している。誕生日にはそれぞれ希望された食べ物を提供している。	食事は、隣接した施設からの供給で、利用者も盛り付けや食器拭きなど手伝っている。行事食は、流しソーメンや寿司、そば等の出前などで、誕生会には好きなもののメニューとしている。今年初めて企画した収穫祭は、サンマの塩焼きやキノコご飯、三平汁は季節の味覚で利用者に変好評であった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々にあった食事量や水分量を把握し、苦手な物を工夫し提供している。食事量が少ない方は、好みの物を提供したり、個別に用意し対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で行うのが困難な方にはスタッフが代行したり、状態に合わせて舌ブラシや歯ブラシ、スポンジ等を用いて介助し、義歯の方には定期的に洗浄剤による洗浄も行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人一人の状況に応じて声掛け、誘導、見守り、介助を行い、自立に向けた支援を行っている。	居室には、トイレと洗面台が設置しており、プライバシーに配慮している。介助を必要な利用者は、排泄パターンを職員間で共有し、時間を見ながら声掛け誘導し、トイレでの自立した排泄に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄状況を把握し、乳製品の提供、水分補給に努めている。散歩や体操も行い、予防を心がけている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	個々の身体状況に合わせて2/W入浴を提供している。希望に合わせて柔軟に対応している。状況によっては、シャワー浴、足浴、清拭を行い見守りを行っている。	浴室は広く、浴槽も大きくゆったりと入浴できる。週2回以上の入浴で、ユニット毎に曜日や時間が決まっているが、利用者個々の状況に沿った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や状況により自由に休息できるよう支援している。安眠できるよう室内の温度調整、加湿に配慮し、見守りを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容を把握し、服薬変更があった時は職員間で情報を共有し、状態観察を行い主治医にも報告している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や得意な事を把握し、家事作業や畑仕事等の力を発揮できる場面作りをしている。買い物や外食、又飲酒の時間を設けたり、楽しみの時間を作っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員と一緒に買い物や外食、散歩に出かけている。ご家族の協力を得てカラオケに出かけたり、敷地内の施設に住む妻の所へ出かけている。	広いホーム内や敷地内の散歩、外気浴など日常的に支援している。外出行事は、事業所でのお花見や紅葉ドライブ、港へ行ってクルーズ船の見学や北島三郎記念館、道の駅七重や大沼公園へドライブなど多彩な外出支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理出来る方にはご家族に相談の上お金を渡し、移動販売や自動販売機でジュースを購入する時等に使われている。希望時は職員が代行し買い物し、支払いをされている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自室に固定電話を設置できる環境にしており、希望時にはご家族や知人に電話を掛けられている。携帯電話の使用許可や、施設の電話も自由に使うことは出来ている、		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられるような飾りつけをしたり、エントランスにもイベントごとにお雛様やクリスマスツリー等を飾ることで共用スペースとして活用されている。	共用空間のリビングや食堂は広くゆったりしており、畳の小上がりもある。採光や風通しもよく、丘陵地にある為大きな窓からの眺望が良く季節を感じられる。自然な飾り物や季節の飾り物があり、清潔感のある居心地の良いリビングで利用者はいつも寛いで過ごしている。玄関外には、菜園とベンチがあり、利用者の楽しい収穫もある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	みんなで談笑しやすいように、二人掛けソファを使い対面できるよう配置を工夫している。一人で過ごせるよう離れた場所にソファを配置したり、畳の小上がりも用意している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた物を持って来て頂くよう説明しご本人が過ごしやすくして頂けるようにしている。	居室には、トイレと洗面台、大きな収納クローゼットや棚もあり配慮した造りである。利用者は使い慣れた家具や馴染みの物を持参して、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室出入り口に写真や表札を下げたり、その方が好きな物等の飾りをつけて自分の居室をわかりやすくし、その方にあった配置をしている。		